あとがき（『幸福について』）

宮本百合子

青空文庫

私たち日本の女性が今日めいめいの生活にもっている理想と現実とは非常に複雑な形で互に矛盾しからみあっている。しかもその矛盾や葛藤の間から、私たちの二度とくりかえすことのない人生の一日一日が生み出され、歴史は発展しつつある。

今日すべての人々が困難に感じていることは何だろう。それは現実があまり切迫して、早い速力で遷って行くから、一つの行動の必要が起ったとき、その意味や価値をじっくり自分になっとく出来るまで考えているゆとりがなくて、ともかく眼の前の必要を満たすように動かなければならないということではないだろうか。あらゆる現象が私たちに考えることを要求している。それだのに、そのあらゆる現象そのものの流れの早さが、逆に私たちに考えるべき時間さえあたえない。

こういう現実の激しい流れと、生活の流れが、無意味なものではなくて、はっきりと歴史をすすめるものであることを、私たちは改めて感じ合おうとして、この一冊の本は読者の生活の中におかれる。

夏の幅広い河の流れの中に一つの石が立っている。河の流れはその石にぶつかって波立ちしぶきをあげ小さい虹を立てる。この光景は美しい。水というものが、どんなに変化することが出来、虹となってかかることが、一つの石のあるために証拠立てられる。この本が複雑な激しい希望と困難とのまざり合って流れている今日の生活の中にあって、この石のように、読む人

の一人一人の人生はどんなに価値のあるものであり、個人は、どんなに歴史の中でその歴史を変えながら人間の幸福の可能のために、戦うものであるかということが、知らされて行けば、嬉しいと思う。

この集は第一部第二部と分れている。第一部はおもに一九四〇年頃かかれたもので、『明日への精神』や『私たちの生活』などの中から選ばれた。第二部は一昨年から最近までのものがあつめられている。

この本にとり集められていない沢山の問題が、今日の女性生活の中にある。七八年前は、「異性の間の友情」とか、「恋愛論」としてしか一般の常識の上にとりあげられなかった両性の社会関係についての考察が、この本の最後に集録されている文章の中では、はっきりと明日の、より幸福の約束された社会をつくるための、男女の新しい社会的協力としての面からとり上げられている。「異性の間の友情」の中で最も中心的に語られたのは、この協力の課題であった。けれどもあの時には人々の心にそれは特殊なものとしてうけ取られていた。

今日新しい社会的な環境の中で、両性の協力ということを友情や、恋愛の感情の基本にあるものとして、一般がとり上げ初めたこと、そして私もその角度から率直に、話せるようになって来た事。このことを考えただけでも、日本の社会が絶大な犠牲を払って歩み初めた今日の意味はどんなに深いかが分る。

一九四七年七月十八日

〔一九四七年十一月〕

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集　第十八巻」新日本出版社
　1981（昭和56）年5月30日初版発行
　1986（昭和61）年3月20日第2版第1刷発行
底本の親本：「宮本百合子全集　第十五巻」河出書房
　1953（昭和28）年1月発行
初出：「幸福について」雄鶏社
　1947（昭和22）年11月発行
入力：柴田卓治
校正：磐余彦
2004年2月15日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

あとがき（『幸福について』）

宮本百合子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/